

令和7年度
福岡県ノーリフティングケア普及促進事業
実践報告

～初心に振り返って。そして新たな福祉用具への挑戦。～

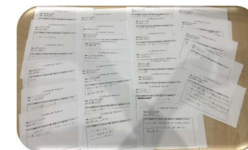


社会医療法人天神会複合施設

1. 令和7年度の課題抽出

リスクの芽の抽出

新たな腰痛リスクは何か？
→それぞれのリスクの芽に
対して改善策を実施



新たな技術者指導

指導者は足りているか？
→委員会メンバーの再編

腰痛アンケートの実施

だれが腰痛リスクが高い？
→腰痛リスクが高い職員へ
個別指導



福祉用具対象者

どの利用者がどの福祉用具を使用するか理解しているか？
→居室表札にテプラで分かりやすく表示



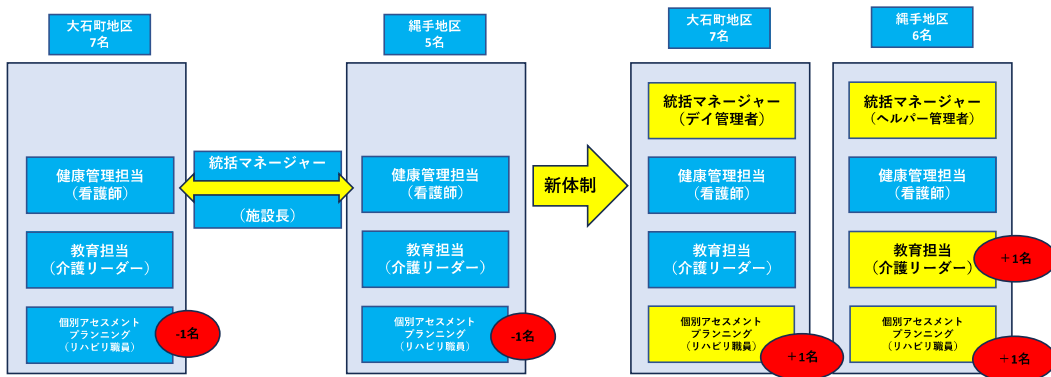
スライディングシート

シートは活用できているか？
→勉強会の実施+テスト

スタンディングリフト

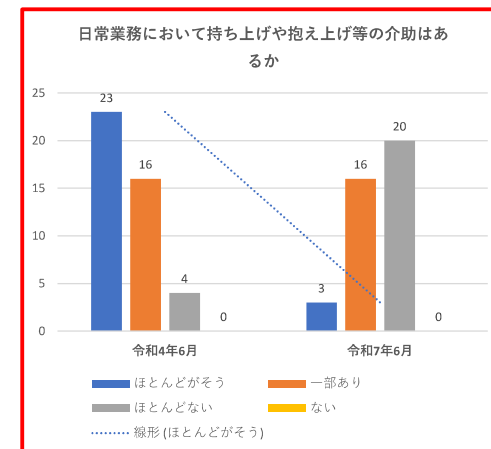
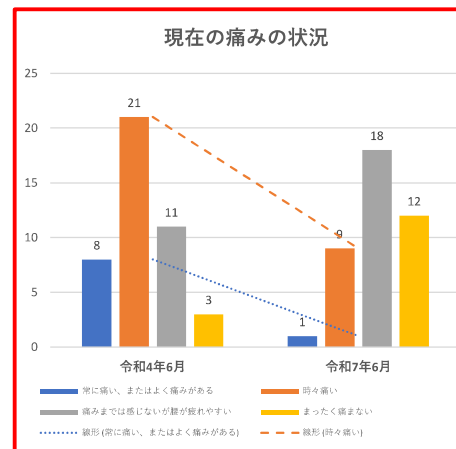
自施設に合うスタンディングリフトは？
→レーザープロの導入

2. 委員会メンバーの変更



統括マネージャーと月1回ミーティングを行い、進捗状況の確認する。
異動してきたリハビリ職員への技術指導

3. これまでの腰痛アンケートの推移



年々減少傾向にあるが、「時々痛い」と「一部あり」をいかに減らしていくかが課題

4. スライディングシートの勉強会

- 課題：①スライディングシートを活用が不十分。（特に車椅子での座り直し）
②新入職員への指導が不十分

職員が研修に参加できるように大石町地区と縄手地区でそれぞれ2日ほど予定を組んで同じ研修内容の全体研修を実施。
参加できなかった職員は個別対応。

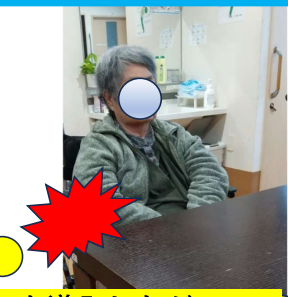


KOGA

6. 新たなスタンディングリフトの導入①

トイレ介助時に無理な姿勢になる

車いすに座りっぱなしで褥瘡の発生リスクUP



Hugを導入したが・・・

- 腋窩から支えるため、握力がないと体重を支え切れないことにより対象者が少なかった。
- 費用対効果が低かった
- レンタルしていたが返却・・・

KOGA

5. スライディングシートの勉強会②

上方移動・横移動

勉強会終了後、12月にテストを実施し、個別理解度を確認。
理解度が低い職員は再度研修。



リクライニング車いすでの座り直し

まずは各地区で**対象者1名**を選出。
全職員が活用でき始めたなら次の対象者を増やしていく。



KOGA

7. 新たなスタンディングリフトの導入②

モーリフト レイザープロ

- 軽量、コンパクトで取り回しが簡単。
- 握力が弱くてもベルトを使用すれば安全に移乗ができる。
- 月約6000円でレンタル



本体

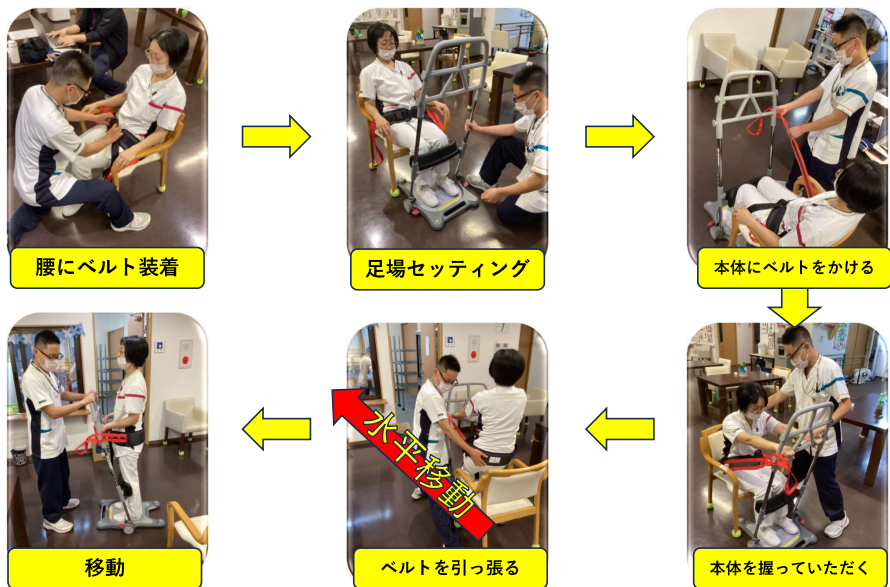


付属ベルト



KOGA

8. 新たなスタンディングリフトの導入③



9. 新たなスタンディングリフトの導入④



ベルトで固定しているため握力がない方でも安全に移乗ができる。

導入決定!!

下肢筋力の維持・向上から自立支援へ繋げることができる!!

10. 新たなスタンディングリフトの導入⑤

大石町地区、縄手地区それぞれ2台レンタルで導入

スライディングシート同様に勉強会を実施

対象者のリストアップ

対象者の優先順位

優先順位が高い利用者から、それぞれ1名を選出

慣れてきたら次の利用者へ



11. まとめ及び今後の課題

まとめ

- 統括マネージャーをそれぞれの施設に配置することで細かな課題に対応しやすくなった。
- スライディングシートの理解度テストを行うことで、それぞれの技術力の確認、及び改善することができた。
- レイザープロの導入により、トイレ内での無理な姿勢での介助が楽になり、また利用者の下肢筋力への向上の可能性が高まった。

今後の課題及び目標

- 新入職員や異動職員への研修内容の確立。
- ラウンドによりスライディングシートの定着を図る。
- レイザープロの対象者を増やし、下肢筋力の向上に繋げる。
- スライディングシートなど福祉用具の使用方法のテストを継続的に実施。
- 法人内の技術勉強会を実施。

